

現代日本人の自然観を探る

－ 60歳以上男女による日本産野生動物の認知度分析－

広谷浩子・広谷彰

神奈川県立生命の星・地球博物館

はじめに

現代人の多くは野生動物と直接的な関わりをもつことが少ない。生活環境の急激な変化がふれあいの機会を極端に減らして、意識的な努力なしには関わりを持つことができてなくなっている。いっぽう野生動物に関する情報は、以前にくらべ、膨大なものになっている。求めれば、高精度の写真や動画をそなえた図鑑を見ることもできるし、自然観察や昆虫採集をバーチャルな世界で行なうことさえできる。とぼしい実体験と膨大な情報とのアンバランスの中にあって、人々はどのような自然観を育てているのだろうか。

上のような問題意識のもと、著者らは大学生を対象に調査をおこない、自然認識はかなり貧弱であり、実体験との結びつきが希薄であるとの結果を得た（広谷・広谷、投稿準備中）。この結果が、若者に特有の傾向なのかを確かめるため、60歳以上の男女を対象とした調査結果を新たにまとめた。本稿では、60歳以上の被験者への調査結果を紹介し、大学生の結果との比較を行なう。

方法

調査対象は神奈川県小田原市及び鎌倉市在住の60歳以上の男女、合計104名である。それぞれシルバー大学および文化講演会の受講者である彼らに、以下のような日本の野生動物に関するアンケートをおこなった。質問内容は「現在、日本に生息する野生の動物の種

名をすべて書いてください」とした。種名を列挙して選択させる形式ではなく、誤りも含めて動物名そのものを自由に記述してもらった。回答があまり分散しないよう、以下の条件および説明を加えた。

- (1) 狭義の動物、すなわち哺乳類とし、この仲間は体毛があり子供を生み乳で育てるという特徴がある。
- (2) 北海道から沖縄県に生息する陸棲の動物とする。
- (3) 野生とはもともと日本に生息し、動物園の動物や家畜などのように人間が連れ込んだり改良したものではない。

当然ながら、回答用紙に記述される動物名は必ずしも生物学で定められた種名とは限らない。各動物がどの程度認知されているかの分析は、動物の一般名でおこなった。一般名とは、「ネズミ」のようにいくつかの種を包括する総称、あるいは種名「ニホンジカ」に対する「シカ」のような略称である。一般名の決定は先の論文（広谷・広谷、投稿準備中）の方法にしたがった。日本産野生動物は22種類の一般名で表わすことができた。一般名は、1属1種に対応するものが12例、1属に対応しそこに複数種が含まれるものが5例、複数の属にまたがるものが3例、複数の属にまたがり結局科と一致するものが3例であった。この一般名をもとに各動物の認知度を算出した。総称およびそれより下位の分類、すなわち種や亜種などのうちどれかひと

表1 現在日本に生息する陸棲の野生哺乳類の分類表と一般名。数字は104人中の回答数を示す。
*は絶滅。

目	科	属	総称、略称	種名	詳細名	一般名	
食肉	クマ	Ursus	クマ 73	ヒグマ 25		クマ 99	
				ツキノワグマ 33			
	イヌ	Vulpes		キツネ 78	キタキツネ 22	キツネ 91	
				Nyctereutes			タヌキ 85
				Canis			オオカミ 56
	イタチ	Martes		テン 25		テン 25	
				クロテン			
		Mustela		イタチ 47		イタチ 48	
				イイズナ			
				オコジョ 3			
	Meles		アナグマ 13		アナグマ 13		
	Lutra		カワウソ 13		カワウソ 13		
ネコ	Felis	ヤマネコ 17	リョコビヤネコ 33		ヤマネコ 44		
			ベンガルヤネコ 3				
霊長	マカサル	Macaca	サル 79	ニホンサル 22	ヤクシマサル 1	サル 92	
偶蹄	イノシシ	Sus		イノシシ 76		イノシシ 76	
	シカ	Cervus	シカ 40	ニホンジカ 39	エゾシカ 36	シカ 81	
	ウシ	Capricornis		カモシカ 45		カモシカ 45	
ウサギ	ウサギ	Lepus	ウサギ 48	ユキウサギ 11		ウサギ 59	
		Pentalagus		アマミノコウサギ 1			
	キウサギ	Ochotona		ナキウサギ 4		キウサギ 4	
食虫	モグラ	Mogera	モグラ 75	アズマモグラ 1		モグラ 76	
				コウベモグラ 1			
				サドモグラ			
		Nesoscap		センカクモグラ			
		Euroscapt		ミズラモグラ			
		Dymecodon		ヒメヒミズ		ヒミズ 0	
	Urotrichus		ヒミズ				
	Sorex			トガリネズミ		トガリネズミ 0	
				ヒメトガリネズミ			
				オオトガリネズミ			
			チビトガリネズミ				
			アズミトガリネズミ				
			サドトガリネズミ				
Chimarogale		カワネズミ					
Crocidura		ジネズミ					
			コジネズミ				
			オナガジネズミ				
げっ歯	リス	Sciurus	リス 41	キタリス	エゾリス 9	リス 52	
				ニホンリス 4			
		Tamias		シマリス 6			
		Petaurista	モモンガ 10	ホンドモモンガ		モモンガ 10	
			タイリクモモンガ				
	Petaurista		ムササビ 15		ムササビ 15		
	ヤマネ	Grirulus		ヤマネ 6		ヤマネ 6	
	ネズミ	Clethrion	ネズミ 63	タイリクネズミ		ネズミ 63	
				ヒメヤチネズミ			
				ムクゲネズミ			
	Eothenom		スミスネズミ				
			ヤチネズミ				
	Microtus		ハタネズミ				
	Micromys		カヤネズミ				
	Apodemus		ヒメネズミ				
			ハトウカネズミ				
			アカネズミ				
		セスジネズミ					
Tokudaia		トゲネズミ					
Diplothrix		ケナガネズミ					
Mus		オキナワハツネズミ					

つでも答えた人の数を、一般名の回答数とし、この回答数の回答者数に対する割合(%)を認知度とした。

結果

1. 回答にあらわれた動物

『日本の哺乳類』(阿部ら, 1994)の分類によれば、現在6目15科37属61種の地上性の野生動物が日本に生息している。アンケートの回答と分類表を対照させた結果を表1に示した。ここでは、一般名との混乱を避けるため、阿部らが採用したネズミ目、モグラ目、ネコ目といった表記ではなく、旧来のげっ歯目、食虫目、食肉目といった表記を採用した。全61種中、誰も名をあげなかった種は40種(65.6%)におよんだ。小型種は種数が多く、げっ歯目と食虫目だけで39種(63.93%)を占めるが、両目はアズマモグラとコウベモグラをのぞき、種レベルで認識されていなかった。これらを除いた22種のうち20種(90.90%)の種名があげられた。

誤りも含めて、一人平均 13.44 種類 (SD=4.89、N=104)の動物名を回答した。この結果は大学生の結果(平均13.25種類、SD=5.47、N=328)とくらべて若干高かった。また、レンジは3から29種類で、大学生の1から38種類に比べると、個人差が狭かった。両サンプル間の差は統計的に有意だった(Wilcoxonの符号付順位検定、 $p<0.001$)。

陸棲動物という条件を呈示したために、水棲動物や鰭脚目および食肉目のラッコおよび翼手目についての回答が人によってまちまちな解釈にもとづいたものになってしまった。これらの動物は以下の分析から省かざるをえなかった。したがって、本論では、鰭脚目、翼手目およびラッコを除く陸棲の日本産野生哺乳類(以下、日本産野生動物と表記)をおもな分析の対象とした。これに限ると、平均10.61種類(SD=3.87)の動物名があげられ、レンジは3から20種類であった。これらの結果は、大学生の結果(平均8.47種類、SD=2.70、レンジ0から15種類)に比べ、動物数も多く、個人差も少なかった。両サンプル間の差は統計的に有意だった(Wilcoxonの

符号付順位検定、 $p<0.05$)。

2. 認知度

各動物の認知度を図1に示した。これによると、クマ、サル、キツネ、タヌキ、シカ、モグラ、イノシシの7種類が認知度が75%以上であった。さらにネズミ、ウサギ、オオカミ、リスの順で認知度が高く、50%にたっしたのは、12種類あった。この結果は、大学生の場合(図2)にくらべ、認知度が若干高かったが、両者の差は有意ではなかった(Wilcoxonの符号付順位検定、 $0.1<p<0.5$)。種類数と認知度の比較結果から、日本産の野生動物について60歳以上の被験者の方がより広い知識を持っていることが推測される。

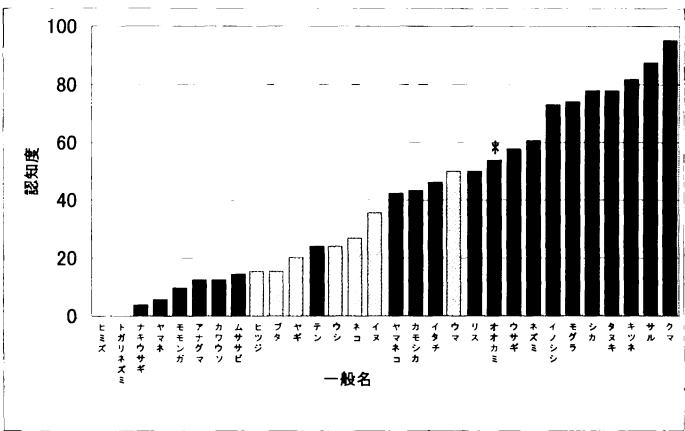


図1 各動物の認知度。絶滅種であるオオカミ(*)と家畜(斜線のバー)も同時に示した。

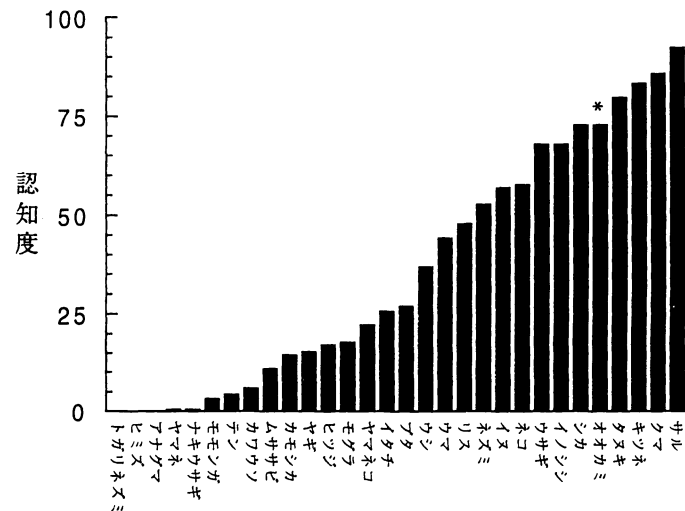


図2 大学生における各動物の認知度(広谷・広谷、投稿準備中より)。

認知度の高い動物の種類は、大学生と本サンプルとでよく一致していた。

日本国内でオオカミはすでに絶滅しているので今回の質問条件には合致しないが、高い認知度を示したので図1にくわえた。

西表島と対馬の森林にごく少数しか生息しないにもかかわらず、ヤマネコは42.3%と高い認知度を示した。いずれも絶滅危惧種であるが、両種の認知度には大きな相違があった。回答はイリオモテヤマネコに大きく偏っていた。

モグラを除く食虫目であるヒミズ・トガリネズミが完全に見落とされ、その他にナキウサギ、ヤマネ、モモンガの認知度が10%以下だった。しかし、10%以下の種類が8種類もあった大学生の場合にくらべると(図2)、総じて高い認知度を示していた。

3. 条件から逸脱した回答について

家畜・ペットであるにも関わらず回答されたのは、ウマ、イヌ、ネコ、ウシ、ヤギ、ブタ、ヒツジであったが、いずれも認知度は50%以下であった。特にウマは、野生化した個体群(都井岬など)を特定して回答したものが多く、野生を意識しての回答であると類推された。大学生の回答では、イヌおよびネコの認知度が60%にも達していたが、60歳以上のサンプルではこのような結果は認められなかった。

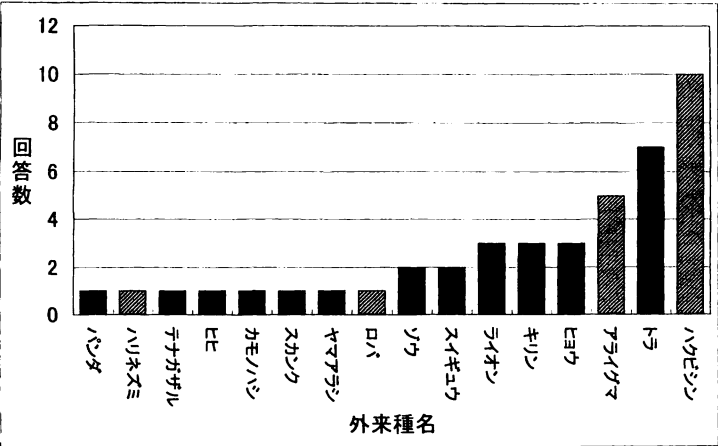


図3 国外産動物の種類と回答数、帰化動物・ペット、家畜等は斜線のバーで示した。

国外産の動物について、少なくとも1種類混在して回答した被験者は104人中26人(25%)であった(図3)。その内訳をみると、回答した種類数は全体で16種類で、ハクビシン、アライグマなどのまちがしやすい帰化動物をのぞくと、12種類中11種類は回答数が3以下(回答者の3%以下)というものであった。これに対し、大学生では全部で31種類の国外産動物があげられ、回答数8以上(回答者の3%以上)のものが11種類にも達していた。

大学生では、日本産野生動物を数多く知っている回答者ほど、混在の程度が低く、「野生」「家畜」「日本産」という概念をよく把握している傾向がみとめられた(広谷・広谷、投稿準備中)。60歳以上の被験者で回答のなかに家畜・ペットや国外産動物が混在する程度を調べた結果(図4)、家畜・ペットも国外産動物も混在のレベルが一貫して低い傾向にあった。

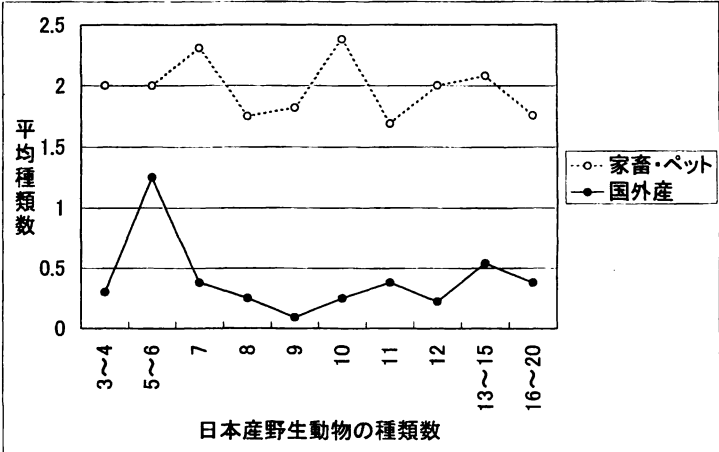


図4 日本産野生動物の種類数に対する家畜(○)および国外産動物(●)の平均種類数。

考察

1. 大学生とのコントラスト

今回の分析結果と大学生の結果との違いは表2のようにまとめられる。60歳以上男女の方が、回答する日本産野生動物の種類も多く、認知度も高く、家畜・ペットや国外産野生動物の混入の程度が低くて、日本産野生動物を他の動物と区別してよく認知していることが明らかになった。

表2 60歳以上男女と大学生の比較結果

サンプル	動物の種類数	日本産野生動物の認知	家畜・ペットの混入	国外産野生動物の混入
60歳以上男女	13.44	種類数多く、認知度が高い種が多い	認知度低い野生ウマ	認知度低く、種類数少ない
大学生	13.25	種類数少なく、認知度の高い種類は少ない	認知度高いイヌ・ネコ	種類数多い、日本産野生動物の認知と拮抗する

2. 認知度に影響する要因について

著者らは、大学生のサンプルのデータ解析において、体の大きさ、昔話への登場頻度、現在における身近さが認知度に影響を及ぼすであろうと論じた（広谷・広谷、投稿準備中）。

高い認知度を示す日本産野生動物の顔ぶれには、60歳以上男女と大学生とで違いが認められなかったことから、60歳以上男女のサンプルにおいても、認知度と上の3つの要因とは深く関わっていると予想される。

大学生と共通した種類以外に、60歳以上男女の回答で比較的高い認知度を示していた日本産野生動物は、モグラ、ネズミ、リス、ヤマネコ、イタチ、カモシカ、テンであった。このうち、リスやネズミは近縁種がペットとして飼われるため、カモシカ、ヤマネコは食害問題や希少性をテーマとしてマスコミで取り上げられことがあるため、共に今日的に身近になったものと考えられる。これらの要因との関わりが不明なのは、イタチ、テンであり、これらが大学生の場合とはちがう「実体験」にもとづいた結果なのか否か、より詳しい調査が必要になると考える。

おわりに

詳しい分析をする以前には、認知度の高い動物の顔ぶれがよく一致してしていることから、60歳以上男女と大学生の間の違いは大きくないと予想していた。予想に反して、両サンプル間では特に種数に関し量的な違いが明らかになった。少数のよく知っている人がいることよりも、多くの人々にそこそこに共通した土台として、さまざまな哺乳類が暮らす自然が認識されていることは、重要である。これこそが、自然観というものではないか。そして、自然とはその地域に固有の特色をもったものであり、何でもつめこんであればいいというものではない。

微かともいえる違いが、今後明らかになるより大きな変化を内包したものなのか、さらに調査を続けたい。

参考文献

阿部永 監修, 1994. 『日本の哺乳類』, 195p, 東海大学出版, 東京.
広谷彰・広谷浩子, 準備中. 日本産野生動物に関する大学生の認知度